報道機関 各位

平成17年5月17日
国立大学法人 広島大学
情報化推進部広報課長

広島大学教育学部とソウル大学校師範大学と の 学術・教育交流に関する協定書の調印式につ いて

広島大学教育学部と大韓民国ソウル大学校師範大学は、両大学の学術・教育分野における協力を通じ、両国及び両大学間の相互理解を深め、かつ学術の進歩・発展に貢献するため、別紙のとおり、交流協定を締結する運びとなりました。

つきましては、下記のとおり、協定書の調印式を開催いたします。

ご多用中まことに恐縮ではございますが、是非ご出席賜わりたく、ご案内申し上げます。

記

日時 平成16年5月20日(金)10時30分～

場所 広島大学 教育学部 第二会議室(教育学部管理棟2F)
東広島市鏡山1-1-1

出席者: 広島大学

中原忠男 教育学部長、大学院教育学研究科長

坂越正樹 大学院教育学研究科副研究科長

ソウル大学校

Chung-il YUN ユン学部長

Hohwan YANG ヤン副学部長(学術部門担当)

Jinwoong Song ソン副学部長(企画・開発部門担当)

【お問い合わせ先】

コーディネーター:
広島大学大学院教育学研究科 教授 渡部
TEL 082-424-6840

事務担当者：
教育学研究科部局長支援グループ主査
岡本
TEL 082-424-6705

[発信枚数;A4版 3枚(本票含む)]

- [協定書](#)
- [協定書附属書](#)

日本国広島大学教育学部と大韓民国ソウル大学校師範大学 との間の学術・教育交流に関する協定書

日本国広島大学教育学部と大韓民国ソウル大学校師範大学は、両大学の学術・教育分野における協力を通じ、両国及び両大学間の相互理解を深め、かつ学術の進歩・発展に貢献するため、ここに学術・教育に関する交流協定を締結する。

(交流事業の内容)

第1条 両大学は、次の交流事業を行うことに合意する。

- (1) 教職員の交流
- (2) 学部学生及び大学院生の交流
- (3) 共同研究の実施
- (4) 学術刊行物その他の学術情報交換
- (5) その他、両大学が適当と認めた学術・教育交流

(交流事業の実施)

第2条 前条に定めた事業の実施に当たっては、両大学間で協議し、実施するものとする。

(有効期間)

第3条 本協定書は、両大学間の代表者の署名によって有効となる。また、本協定書は3年間その効力をもつ。両大学に異義がなければ自動的に協定は継続される。

(改廃)

第4条 本協定書の変更あるいは付加事項が生じた場合は、常に両大学の合意が必要である。合意事項の必要な変更については、常に相手に知らせる義務をもつ。協定を破棄する場合、両者が本協定書の合意を終了することに合意し、一方に書面で通知し、6ヶ月以上経過した後、本協定の破棄を行うものとする。

(使用言語及び解釈)

第5条 協定書の書式及び内容の解釈については次のとおり取り扱うこととする。

- (1) 本協定書は、日本語、韓国語及び英語で作成し、いずれも同等の効力を有するものとする。
- (2) 本協定書の解釈について疑義が生じた場合は、両大学が協議し、解決に努めるものとする。

日本国広島大学教育学部と大韓民国ソウル大学校師範大学
との間の学術・教育交流に関する協定書附属書

1. 日本国広島大学教育学部と大韓民国ソウル大学校師範大学は両大学が結んだ学術・教育交流に関する協定の第1条第1号について、教職員の交流の実施に関する項目を定め、合意する。

教職員対象者は、送る側の大学によって提案される。教員同士の個別対応による招聘(特に、教授や助教授の場合)も可能であり、特定の研究あるいは教育分野で高い専門性を持つ教員の場合も同じく招聘可能である。受け入れ大学での滞在中の医療費については、教職員が事前に契約した保険制度によってまかなわれる。対応できない保険の場合、自らその対価を支払うこととする。
2. 両大学が結んだ学術・教育交流に関する協定の第1条第2号について、学部学生・大学院学生(以下、「交換学生」という。)の交流の実施に関する各項目を決め、合意する。
 1. 交換学生の交流については、教育及び研究との関連性を重視すること。
 2. シンポジウムや学会への参加もその目的に含まれる。
 3. 交換学生の数は、毎年2名以内とする。受け入れ大学における交換学生の在籍期間は1年以内とする。受け入れ学生と送り出す学生の数のバランスを考慮すること。
 4. 両大学は、交換学生にかかる検定料、入学料及び授業料は徴収しない。
 5. 受け入れ大学によって認定された交換学生には、留学期間と同じ期間のビザの申請に必要な書類が受け入れ大学から送付される。
 6. 交換学生の身分は、広島大学では学部学生については特別聴講学生、大学院学生については特別聴講学生、特別研究学生及び外国人研究生とする。ソウル大学においても同等の扱いを行う。
 7. 交換学生は、受け入れ大学の指定する特定の科目を除き、受け入れ大学が提供するすべての科目に登録することができる。
 8. 両大学は、各大学の規則と手続きに従って、受け入れ大学で交換学生が取得した単位を互換するように努めることとする。
 9. 両大学は、交換学生が適当な住居を確保できるよう可能な限り努力を払うものとする。
 10. 旅費・生活費に対しては、交換学生自身が責任をもつこととする。
 11. 受け入れ大学での滞在中の医療費については、交換学生が事前に契約した保険制度によってまかなわれる。対応できない保険の場合、交換学生は自らその対価を支払うこととする。
3. 本附属書の改廃については両大学は相手方に6ヶ月前に通告し、協議するものとする。
4. 本附属書の解釈について疑義が生じた場合には、両大学が協議し、解決に努めるものとする。
5. 本附属書は、日本語、韓国語及び英語で作成し、いずれも同等の効力を有するものとする。